

“無償化”される幼児教育の現場ってどんなところ？

平成30年度

附属幼稚園だより新年特別号【H31.1.8】

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（文責/園長 石川照代）



七転八倒の「チーム研」？ でも等身大のテーマで研究してます！

午後の分科会は「チーム別研究発表」

保育や教育の現場で、自分が抱えている課題を解決できるのは、きっと自分だけです。しかし、give & take!! 苦楽を共にする仲間と一緒に、ポジティブに、そして楽しく研究や研修に取り組みたら、どんなにか素敵でしょう！

困りや悩みはみんな同じ！ だから、とにかく集まろうよ!!

1月26日（土）保育研究協議会

「ちっとも言うこと聞いてくれない〜!」「何をさせればいいのかわかんない!」「どうすれば子どもがこれをしてくれるのかな〜!」若い先生方や経験の少ない先生方の悲鳴にも似た声が聞こえてきます。

「遊び=学びってどういうこと?」「子どもが“主体的に遊ぶ”って、ただ遊ぶのとどう違うの?」新要領や新指針がスタートして戸惑う声も、あちらこちらから寄せられています。

幼児教育や保育の現場では、子どもに何かを「させる」のではなく、子どもが「したくなる」ように環境を構成したり援助をしたりするのですが、それがなかなか、子どもや教師の姿としてイメージできずに悩んでいるようです。忙しい日々の中では、他園の保育を見に行く余裕がありません。しかし、「学ぶ=まねぶ」といわれるように、保育の仕事でも「こんな保育をしたいな!」というロールモデルが必要です。本園にリカレント研修に見えた先生方は、子ども同士のいざこざに教師がどう関わるのか、リアルな場面を目撃して大いに参考になったと口を揃えて言っています。

幼児教育・保育がどれだけ大切かはもう語るまでもありません。これからは、担う先生方の成長を支えることを真剣に考えねばなりません。

お互いに悩みは尽きませんが、壁を越え、集まり、語り合うことから始めませんか?本園は、保育園、こども園、幼稚園の先生方がリカレント研修でも一緒に学び合える雰囲気があります。

どうぞ、今年度の「保育研究協議会」を、語り合う場に利用して頂きたいと思えます。敷居は限りなく低くしています。お気軽にご参加ください。（詳細・申し込みは、HPをご覧ください。）

今年度最後の「幼児教育フォーラム」は、幼児の遊びの世界を豊かにする2本です。一本目は、造形教育を研究してきた園長が熱く語ります。「お願いしたいのは、幼児の表現力を伸ばすことより、曲げないこと!」附属幼稚園で出合った珠玉の作品をご覧ください。幼児の絵画の世界と一緒に旅していきます。

そして、もう一本は、園長の熱気を爽やかに冷まして頂ける園庭での「ネイチャーゲーム」です。講師は、大分大学の牧野治敏先生です。先生は、自然を使って子ども向けの楽しいワークショップを各地で開催されています。身近な自然も見方や使い方が一つでこんなに楽しく遊べるということを体験して頂きます。奮ってご参加下さい。

FAX・電話での申し込みも受け付けています。

「二月十六日」のフォーラムは、楽しい造形遊びとネイチャーゲーム

私たち、教材にこだわりました!

三歳児が生まれて初めてで合う教材があります。その出会いの瞬間を大事にしたい!子どもの心をふるわせたい!楽しさを知って欲しい!そんな思いで教材にこだわり抜いて準備し、環境を構成しました。すると、子どもの姿はもちろん、保育する私たちの心までもがウキウキと弾んできたのです。さて、その理由は?教材研究のあり方を問い直してみます。

年少チーム



明日の保育に生きる生き証人は?

子どもたちは楽しんで遊んでいる。これ以上私たちは何をどうすべきなのだろう?子どもたちの姿をどう見取って、どう明日の保育に繋げばいいのだろう?毎日繰り返す自問自答。解決の糸口をようやく見出した年中チームの軌跡です。見出したものは、「ラーニングストーリー」と呼ばれる新しい保育記録の手法に似ていることがわかりました!その手法とは?

年中チーム



子どもが変わる!主体的な種と揺動

「主体的な姿」とは、一体どういう姿なのだろう。ややもすると、幼児の遊びの姿は、それぞれものが一見主体的に見えることから、遊ばせ放しや遊びを与えて遊ばせる保育も多いと聞きます。友だちと関わりながら遊ぶことが苦手な子どもを育てたい。チームは丸となり、様々な手立てを環境の構成や援助の中に取り入れ、試行錯誤しました。「援助」のセオリーを疑うことから始まる「挑戦」の報告です。

年長チーム



リカレント研修はこんな感じでやっています!

～附属幼稚園で1日一緒に過ごしてみませんか?～

昨年、大分合同新聞 7月18日の夕刊に取り上げて頂いた通り、本園では今年度、「リカレント研修」と称して、現場の先生方が抱える悩みや困り、課題の解決に役立てて頂くための研修プログラムを実施しています。

まず、子どものたちの登園前に来て頂き、個々に合わせて研修をカスタマイズして頂くための簡単な「オリエンテーション」を行います。その後、希望した学級に行き、準備された保育室や園庭の環境の構成を見たり、担任が子どもたちと関わる姿を観察したり、子どもたちの遊びの様子などを間近に観察したりして、自身の課題解決の為のヒントを読み取って頂きます。本園では、子どもたちが「自分の好きな遊び」を追求していくことを大切にしており、その中でこそ「主体的な姿」は養われていくというスタンスをとっているため、子どもたちの遊びの様子は、少し自園と違うかもしれません。しかし、お弁当の時間の当番やマナー面、帰りのふりかえりの時間などはどこの園でもあるようで、具体的な援助の方法や指導のヒントを得て頂けているようです。三学期の研修受入可能日は少ないですが、学年末の「発表会」に向けて、主体的に取り組めるようにするには、どのように援助すればいいのかなど、大いに参考にして頂けると幸いです。是非ご検討頂き、お気軽においでください。(別添参照)



遊びの様子の観察では

◎子どもたちの遊びを通した学びの様子や、主体的に遊び込む姿を見取るために、子どもと言葉を交わすこともオーケーです。

- ・これからは、子どもが「今したい」と思っていることはどんなことなのかを知り、そのためには何が必要なのかを一緒に考え、活動に取り入れていきたいです。
- ・時間で区切らず、子どもたちの気が向くよう環境を整えたり、設定したりしてることがわかりました。
- ・自ら活動することで、集中力も続くと感じました。



S 研修に参加しての感想 S

担任保育者との交流では

◎あの時、あの場面でなぜあのような援助をしたのか? 可能な範囲で様々な疑問に答えています。

- ・保育者の考えるように子どもを動かすのではなく、子どもたちが自ら目標や目的を持って日々の活動を主体的に行うことができる環境づくりや声かけ、支援が必要なことがわかりました。



全体への指導場面では

◎揃えたい経験や習慣やマナーの指導場面では、子どもたちの困りや必要感を揺さぶる言葉かけが大切であることなどを学んで頂いています。

- ・準備で子どもが主体的にする工夫を知りました。
- ・子どもたちが自分の気持ちを発言できるような場づくりや言葉かけの方法がわかりました。

特に解決したい悩みは

◎支援の必要な子への援助の方法や考え方にも、具体的な事例を通してお話ししています。

- ・支援の必要な子を無理に輪の中に入れるのではなく、その子と話し合い、区切りを約束してそこまで待つと次の行動に移れることがわかりました。
- ・視覚化して「カード」にしていました。

